

湖東産地「麻を知ろう。産地を知ろう。」



■平成20年6月28日 滋賀県近江八幡市

■参加者 (TDA)

加藤國男、村山福子、寺井洋介、鈴木洋介、山口道夫、神沢郁子、
岩岡利都子、宮武京子、矢澤寿々子、橘喬子、濱田愛子、山下裕子、
野々口悟、加藤美津子、大高亨、北川陽子

(会員外) 山城孝之

(湖東産地) 今堀豊、中村文郎、小野雅弘、森下あおい (滋賀県立大)

北川順子、村林文代

(産地講師) 辻文五郎、大橋富美夫



上から：麻の勉強会
白雲館
酒遊館
酒遊館にて交流会

明治時代初期の学校建築物で擬洋風建築の白雲館を会場に産地勉強会と見学、座談会を開催しました。第1部「麻」の話を開く会では(株)麻糸商会の辻氏より麻の繊維についてお話いただきました。辻氏は湖東産地で麻糸を扱われて50余年、正に産地の生き字引的存在です。実際に大麻(ヘンプ)苧麻(ラムー)亜麻(リネン)の糸になるまでの植物や繊維を手にしなが、それぞれの麻の特徴、麻の歴史も含め貴重なお話でした。

上質な細番手の麻糸を作り出す技術が日本にありながら麻の栽培規制、効率、価格競争の波に飲み込まれ、糸の生産の現場を海外に移すことになった経緯など、辻氏の現場の生の声は実に説得力がありました。

続いて(株)大長の大橋氏より生地仕上げ加工についてのお話をいただきました。湖東産地の特長である伝統的な手もみちぢみ加工、灰汁による精練や芝生の上での天日晒のしくみについて、そして現在の加工技術までご説明いただきました。現在の加工技術では綿素材を麻に似せる、布を痩せさせしなやかにする、強制しわを施すなどあらゆる表現が可能なのがわかります。

しかしながら、その一方で、大橋氏は環境配慮の面からも今こそ昔ながらの自然の力を活かした伝統技法の必要性を訴えられておられました。

改めて産地が伝えていかなければならない事、守って行くべき事が確認できたように思います。

産地で仕事を続けるために何をすべきか。私たち湖東繊維工業協同組合では「今さら近江商人委員会」を立ち上げ、今年度は「近江の麻」「近